

# 暖地リンドウの遮光処理による品質向上対策

本県低標高地におけるリンドウ栽培では、日最高気温が30℃以上となる場合に花卉着色障害の発生が増加する傾向にある。対策として、花蕾成長期に遮光処理を実施することで障害発生を軽減できる。

## 成果の内容

- 1 「西京の夏空」の露地2年目栽培において遮光処理を施さない場合は、花卉着色不良症状が42.3%ほど発生するが、遮光処理（遮光率55%）を実施することで3.1%に減少する（表1、図1）。
- 2 花卉着色障害は、花蕾成長期（開花3週間前から2週間前までの期間）において日最高気温が30℃以上となる場合に発生が増加する傾向にあり、この期間に遮光処理をすることで障害発生を低減できる（図2）。
- 3 遮光処理に係わるコストは全体の3.5%程度である。遮光資材の導入により、年間農業所得は12.9万円/10aほど増加する（表2）。

## 成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 県内における年平均気温15℃前後の温暖な地域が対象であり、県オリジナル3品種の耐暑性品種での栽培が前提となる。
- 2 本試験では、遮光資材はシルバータイプ（遮光率55%）を使用した。

## 具体的なデータ

表1 「西京の夏空」の遮光条件下における生育状況（平成28年）<sup>2</sup>

調査地点	開花日	草丈 (cm)	花段数	収穫本数 <sup>y</sup> (本/株)	欠株率 (%)	葉枯病 発生株率 (%)	葉焼け症 発生株率 (%)	花卉着色不良症 状発生率 (%)
遮光処理	7月14日	125.0	5.7	7.2	0	0	0	3.1
無処理	7月21日	125.8	4.9	8.1	0	0	0	42.3

<sup>2</sup>平成26年5月定植の2年生株と平成27年5月定植の3年生株で調査

<sup>y</sup>収穫本数: 切り花長50cm以上かつ花段数2段以上



図1 「西京の夏空」における着色不良障害の発生の様子

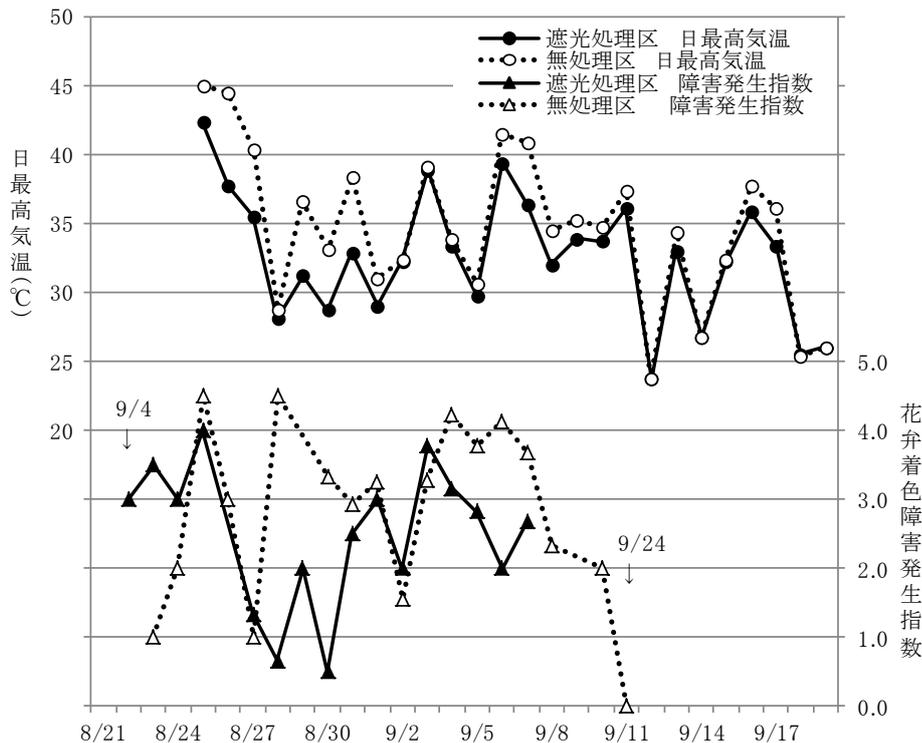


図2 遮光条件下における花卉着色障害発生指数<sup>z</sup>と日最高気温<sup>y</sup>の類似性(平成28年)<sup>x</sup>

<sup>z</sup>育成系統M9において障害発生程度に応じ、重度5、重から中度4、中度3、中から軽度2、軽度1、なし0と指数化

<sup>y</sup>育地際部から100cmの高さにおいて測定

<sup>x</sup>露地3年生株の花卉着色不良発生指数の時系列を13日分前進、日最高気温との類似性を示す

表2 遮光資材導入時の経営収支<sup>z</sup>

		単位: 千円/10a	
		遮光有	遮光無
粗収益		1,483	1,291
経営費	物財費	357	333
	(うち遮光資材)	24	0
	販売管理費	318	278
	計	674	611
所得(粗収益－経営費)		809	680
所得率		54.5%	52.7%

<sup>z</sup>同一株で5年間連続栽培した場合の1年間当たり平均値(収穫期:2年目～5年目、雇用労賃を除く)

設定条件 表2の収穫本数を基準に、平均販売単価を45円/本、商品化率を80%、品種導入比率を西京の初夏:西京の涼風:西京の夏空=1:1:1と仮定

研究年度	平成28年
研究課題名	温暖地域におけるリンドウの切り花品質の向上と安定栽培技術の開発「革新的技術開発・緊急展開事業」(うち地域戦略プロジェクト)
担当	農業技術部花き振興センター 藤田淳史・友廣大輔(現 農業振興課)